

□目的：・自力で「その人」の癒すべきところが分かり、それにマッチしたレメディを選ぶようになることを目指すものです。人が健康になるとは、どのようなことなのか？について、ホメオパシーの実践を通じて理解を深めます。

□卒業資格：1～3 年次の 6 件の課題提出と 5 件のスーパーバイズのレポート提出終了時に、CHK 卒業資格が得られます。

□1 件のスーパーバイズ範囲には、2 回分の再診（フォローアップ）を含みます。

□事前申請

・セッションできる範囲＝「スーパーバイズシート」で事前申請して下さい。
基本的に健康な方～通院していない。重い病歴がない。主として不定愁訴レベル。
日常生活ができるレベルの方にして下さい。
判断が難しい場合は個別にご相談下さい。事前に担当ホメオパスに相談してもらう。

□提出して頂くレポート

1. 主訴
2. セッション内容（A4 で 10～20 枚程度にまとめる）
3. ケース分析とレメディ提案＝まとめ方は基本的に以下のようにして下さい。

1. 「前分析」（ケース学習時にしたようにお願いします。出来る範囲で OK）

①印象 どのような質感か（エネルギー）

②健康度（0～10） 「0＝死」「10＝ベストな健康状態」として、評価する。

③予後 （良いレメディがある時／レメディがない時）は、どうなるか？

④救急性 （急性か慢性か～救急性があれば、そこから始める）

⑤治癒を妨げているものの有無は？ もしあれば、それを取り除くように

⑥親和性（部位） 具体的にどここの部位に乱れが起きているか？

⑦マヤズム傾向 Psora（不足感と希望） Sycosis（隠ぺいと過剰） Syphilis（絶望・破壊）

Cancer（強い自己コントロール） TB（窒息感と変化への希求）

⑧全体性 レメディはいくつ必要か？例えば、急性に対してと慢性に対してなら、2つの全体性があるを考える。

⑨バイタリティー エネルギーの強さ

2. 本分析＝「何が癒されるべきか？」（病の核心）をとらえる＝統合

要は、全体像をつぶさに眺めて、ケースを貫くものを探すこと。

方法としては、主訴やSRPのCLAMSから、特に病んでいる点の全体像を明らかにする。

など等、ご自身が、やりやすい方法を使って、何が癒されるべきかを捉える。

★基本は、この統合までで、提出して下さい。

それができたら、以下に進みます。

3. 上記「何が癒されるべきか？」の観点から外れない症状を Rubrics として選び、Rep.する。

（レパートライズ Rep.は、絶対に間違いのない Rubrics を 5 個～10 個選ぶと良い。）

4. Rep.表の候補レメディから、ベストレメディを選ぶ。

5. 最終的には、ポテンシーとドーズを決めて、クライアントに提案する。

以上をまとめて、担当講師にデータで送付して下さい。

□その他

スーパーバイズ担当講師 3 人の中から選んでください。あまり 1 人に集中しないこと。

○担当講師連絡先

荻野哲也 oginot@chk-homeopathy.jp

野村潤平 alpha_tauri429@yahoo.co.jp

荻野千恵美 oginochiemi@yahoo.co.jp

○個々にお申し出を頂き、各講師から了解が取れたら、始めてください。

事前に依頼する講師に「スーパーバイズシート」をご提出下さい。

スーパーバイズの過程で必要があると講師が判断した際は、個別面談（スカイプ面談もあります）になることもあります。

○スーパーバイズ依頼料金・・・初回＋フォロー 2 回程度で一旦終了＝2 万円。

各講師に、個別にご依頼・お支払下さい。

○卒業（修了）後にスーパーバイズを依頼する際も、同じ条件でお受けします。

卒業既定の 5 件を超える場合の依頼料金は、同内容で、1 万円になります。

この制度を活用して、ご自身の力を付けて良いホメオパスになって下さい。

以上